

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

| | | | | | |
|-----|-------------|------|-------|----------|-------|
| 学校名 | 広島県立府中東高等学校 | 校長氏名 | 八幡 茂見 | 生徒指導主事氏名 | 曾我 和宏 |
|-----|-------------|------|-------|----------|-------|

取組事例名 『体育大会の実施』

取組のねらい『キーワード 生徒の自己肯定感・帰属意識を育てる』

本校の生徒の中には、学校に対する帰属意識や自己肯定感が乏しく、充実した学校生活を送れない生徒がいる。そのため体育大会の実施を通して「府中東高校の生徒でよかった」と言える生徒や「やればできる」という感情を持った生徒を育てていきたい。

取組の具体的内容『キーワード 計画的に生徒に活躍の場を与える』

- 全校集会を計画的に行い、「府中東の再生の第一歩」という体育大会の意義を、生徒に繰り返し訴えた。
- 実施種目をアンケートで選択させ、生徒の意見を取り入れて決定した。
- 集団行動に参加する生徒を募り、意欲のある生徒に活躍の場を与えた。
- 生徒会執行部の生徒には準備係を、都市システム科の生徒には測量技術を利用したトラックの作成を、インテリア科の生徒には入退場門や得点掲示板の作成を、そして運動部の生徒には審判や招集係を依頼するなど、多くの生徒に活躍の場を与えた。
- 学年対抗、クラス対抗の種目をつくり、各応援団を募集した。
- 個人の運動能力で勝敗のつく徒競走などの種目よりも、大縄跳びやムカデ競争など、集団での種目や、リレーなどを多く取り入れた。
- 体育の授業の中で、繰り返し指導を行い、予行演習は二日に分けて実施した。



取組の課題・創意工夫『キーワード 意欲を高める』

- 集団行動の生徒の頑張りに目を向けさせ、「頑張っている姿が美しい」と生徒に思わせる。
- 「クラス鉢巻を作りたい」とか「クラス旗を作りたい」という生徒から出てきた積極的な意見は、どんどん取り入れ、やる気を引き出させた。



取組の成果（効果）『キーワード 感動した体育大会』

○ 集団行動が行われている時、全生徒が、教員からの指示を受けることなく自発的にクラスメントに入り、真剣に見入り、自然に拍手が生まれていた。

○ 普段見ることのできない生徒の頑張る姿や、明るく元気な姿、爽やかな笑顔を見ることができた。

○ 実施後の生徒アンケートでは、約 85%の生徒が「感動した」と答え、94%の生徒が「体育大会を実施してよかった」と答え、充実してよかったと評価している。また、「来年以降も実施したい」とか「新たな種目を考え、取り入れていきたい」という積極的な意見が多く出た。



今後の展開『キーワード つなげていくこと』

本校の生徒は、行事に対して盛り上げて楽しいものにしていくという意識を持っている生徒は多いが、行事の盛り上がりや、翌日以降の学校生活につなげたり、自己肯定感を持ち続けたりすることにつなげられない生徒がいる。何もないところから始めた本校の第一回体育大会の成功体験を、生徒だけでなく教職員も肯定的にとらえながら次の一歩につなげていくことが大切である。

他校へのアドバイス『キーワード 生徒の力を持つ力を信じる』

2年前の生徒会執行部から「体育大会を実施したい」という声は上がっていた。しかし本校の生徒状況から当面はその声を受け入れることができないと考える教職員が多かった。今年度も不安はあったが、実際に行ってみればほとんどは杞憂であった。生徒を信じて行事を計画的に行えば、生徒は持っている力と可能性を発揮してくれることを改めて認識した。生徒とともに教職員集団が組織として行事を創りあげれば、必ず生徒の輝く姿が見られると思う。